

普及活動情勢報告（令和3年1月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

栗の剪定技術向上で収量アップ！！ ～栗剪定隊の剪定技術講習会の開催～



栗剪定講習会の様子

1月12日、四万十町北幡地域で栗剪定隊に対して、剪定講習会が開催され、作業員5名が参加しました。
特選栗認定農家の現地ほ場において、各品種の結果母枝に適した枝の適性や大きさ、適正な結果母枝数など整枝・剪定のポイントと手順について普及所から指導しました。
作業員からは、「残す枝と切る枝の花芽の違いは？」「この木に実際に残す結果母枝数は？」「1結果母枝当たりの収量は？」など多くの質問が出ました。
普及所では今後もJ Aと連携し、剪定隊の栗剪定技術向上と活動を支援していきます。

集落の農業ビジョンを考える ～米奥農業法人設立準備委員会～



ワークショップの様子

1月12日、米奥集会所で米奥農業法人設立準備委員会を開催し、委員8人が出席しました。
普及所は、意見を出しやすいように2班に分けたワークショップ形式で、今年度集落で行った集落営農アンケート調査結果の振り返りや、集落ビジョンの策定に向けた出席者の話し合いを進行しました。
委員からは、「将来の後継者・担い手はどうする」「法人の経営安定が大事」など意見が多く出されました。
普及所は、今後も町等関係機関と連携して集落ビジョンの策定への話し合いと法人化を支援します。

ユズの生産拡大に向けて！ ～J A高知県四万十ユズ生産部会通常総会～



総会での栽培講習会の様子

1月20日、四万十支所3階大ホールで、J A高知県四万十ユズ生産部会通常総会が開催され、生産者10名が参加しました。
普及所は、ユズの植え付けと幼木管理、整枝・剪定技術についての講義を行いました。
生産者からは、「幼木へのマルチ被覆のメリット・デメリットは？」「剪定はいつ頃から始める」といった声が聞かれ、普及所から説明することで幼木管理や剪定の重要性が理解されました。
普及所は、J Aと連携して剪定講習会を開催し、栽培技術について指導を行い、ユズの生産を今後も振興支援していきます。

商品化の打合せをリモートで行いました ～道の駅大正であいの里～



高知市と大正でリモート会議

1月14日、道の駅四万十大正を運営する「企業組合であいの里」が高知市のデザイン会社との打合せを行いました。同組合は、今年度県の6次産業化支援チームで専門家のアドバイスを受け、パウンドケーキの品質改善やパッケージの作成に取り組んでいます。

今回は、コロナ禍でリモート会議になりましたが、参加した加工部門担当は、試作を繰り返して完成したパウンドケーキの顔になるパッケージを良い物にしようと熱心に話し合いました。

普及所は、チーム会への専門アドバイザーとの調整や、関係者と連携して6次産業化に取り組む方の支援をしていきます。

中山間複合経営拠点フォローアップ会議の開催 ～営農支援センター四万十（株）～



フォローアップ会議の様子

1月13日、営農支援センター四万十（株）の会議室で、フォローアップ会議が開催され、社員や関係機関など11名が参加しました。

普及所は、アグリ事業戦略サポートセンターの専門家とともに、事業戦略の実行に向けて、農業生産や組織体制についてフォローアップを行っています。

営農支援センターの各栽培担当からは雑草や病害虫防除対策のほか、栽培管理に関してマニュアルの作成をしてはどうかなどが話し合われ、対策案の検討を行いました。また、組織体制の整備について、中長期目標の共有を行いました。

普及所は、今後も関係機関と連携し、取組や事業戦略の実行を支援していきます。